

活動テーマ

地域の人々をつくる『渋川ESDミュージアム』

実践事例について

全学年が、地域のくらしや自然をテーマに環境学習に取り組んでいる。草津市が推進する地域協働合校事業を活かし、地域の様々な世代の人々に教わりながら学習を進めている。その学習成果をまとめて、地域の「ふれあいまつり」の日に合わせて、校舎内に「渋川ESD(いいまち 渋川 だいすき)ミュージアム」を開館し、地域の人々に発信している。

1 本校の環境教育について

(1) 地域協働で進める環境教育

本校の環境教育の研究主題は、「渋川を愛し、持続可能な社会の実現に向けて主体的に行動できる子どもの育成」である。環境教育で、子どもたちは地域の身近な自然やくらし、文化について学んでいる。この学びを通して、人と人とのつながりを創出し、ふるさとへの愛着や誇りを深めることをねらいとしてきた。本校の環境教育のプログラムは、本校教員だけではなく、保護者、地域、行政、研究機関、企業が参加した環境教育の支援委員会を組織し、検討を重ねながら作成・実践してきたものである。

(2) 重視するポイント

本校の環境教育のポイントは、持続可能な発展のための教育、ESDの視点に立った環境教育のプログラム開発を進めていることである。ESDの視点に立った環境教育を進める上で、3つの「つながり」を大切にしている。

(3) 3つの「つながり」について

ア 教材の「つながり」

教材間の「つながり」を意識して取り組めるように、ESDカレンダーを作成し実践している。ESDカレンダーとは、1年間の教育活動の中で、各教科・総合的な学習の時間・特別活動等がどのように結びついているのか、カレンダーに項目を示し、その関連を分かりやすく結んだものである。

イ 人の「つながり」

学びの中で子ども同士の「つながり」を大切にしている。体験後に、いかに子ども同士を交流させ、個々の気づきをみんなのものにするかという課題のもと、授業の在り方やスキルについて研究をしている。また、積極的に人材を活用し、学習の中で世代を越えた地域内外の人との「つながり」も積極的に取り入れている。

ウ 能力・態度の「つながり」

ただ体験を通して地域のくらしや自然について調べるだけではなく、調べて気づいたことやわかったことをまとめたり、それをもとに身近な環境について考えたりして、行動に移したりする態度の育成を目指している。

2 【事例①】「滋賀の郷土料理学習」

(1) 郷土料理について調べる活動

ア 昔の渋川を描いた絵図「渋川風景の記憶絵」を見ながら、どんな郷土料理があるのかを調べる計画を立てる。

イ 滋賀の郷土料理の調べ学習をして、わかったことを新聞にまとめる。

ウ 地域の人々に教わりながら、滋賀の食の文化財(湖魚のなれずし、湖魚の佃煮、アミノオゴ飯、丁稚羊羹、日野菜漬け)などの郷土料理を作ったり食べたりする体験をする。

エ 郷土料理に関する話を聞く。郷土料理の専門家や、農家の方から、料理作りや食材に対する思いを伺う。



鮎ずしづくり見学

- (2) 郷土料理のすばらしさを伝える活動
ESDミュージアムと同時開催で、「滋賀の郷土料理博物館」を開館した。
- (3) 成果
郷土料理には、地元の食材を美味しく食べるために気候を上手に利用する先人の知恵がたまっていることに気づいていった。そして、郷土への愛着や誇りを高めることができた。

3 【事例②】「世界農業遺産学習」

- (1) 滋賀の農林水産業について調べる活動
6年生では、郷土料理学習を発展させて郷土料理の食材を生み出す滋賀の農林水産業について学んでいる。現在、滋賀県では琵琶湖と共生してきた農林水産業の世界農業遺産への登録をめざしていることから、この学びを「世界農業遺産学習」と呼んでいる。漁師の方々から琵琶湖の伝統漁法を学んだり、農家の方々から「魚のゆりかご水田」や環境こだわり農法について学んだりしている。
滋賀県では、全小学校で「うみのこ・やまのこ・たんぼのこ」という環境教育の事業を実施している。「うみのこ」では、琵琶湖にある小学5年生専用の学習船で一泊二日の湖上環境教育を全員に実施する。「やまのこ」では、全小学校が、琵琶湖の水を生み出す山のめぐみについて山の施設に出かけて学習する。「たんぼのこ」では、地域協働で米作りを体験する。本学習では、これらの体験事業での学びの総仕上げとして山、川、里、琵琶湖という環境のつながりや、産業のつながりに学ぶという視点を大切にしている。

- (2) 成果
本取組では、児童の主体性を重視するため、児童が実行委員会を組織して、主体的に進めている。そうすることで、学びを自分事と捉え、意欲的な学びに繋がっている。
多くの人と出会い、郷土料理について学んだ

り、その食材を生み出す滋賀の農林水産業について学んだりして、郷土の人や自然、くらしや文化への愛着を深めることができた。

子どもたちは、学習を通して、学んだことを伝えていくことの大切さに気づき、多くの人と積極的に交流し実践を深めることができた。



渋川ESDミュージアム

4 エコ・スクールの取り組みを振り返って

本校の環境教育は、持続可能な地域づくりやそれを担う人材育成の場であると捉え、地域協働で実践を深めてきた。学校、地域、行政、研究機関が参加したエコ・スクール支援委員会を年3回実施し、プログラムの検討を行ってきた。本校の環境教育の実践は、2017年のコカ・コーラ環境教育賞では、『最優秀賞』を受賞し、生物多様性アクション大賞では、『SDGs賞』を受賞した。2018年の低炭素杯では、『文部科学大臣賞』を受賞し、学校自慢エコ大賞では、『大賞』を受賞し、滋賀ICT大賞では『優秀賞』を受賞した。

今後も地域協働で取り組む環境教育を、持続可能なまちづくりを担う次世代育成と捉え推進していきたい。



エコ・スクール支援委員会

学校名	草津市立渋川小学校
住所	草津市西渋川二丁目8-55
電話番号	077-566-6116
E-mail	info@shibukawa-p.sk.ed.jp